沼田市立白沢中学校　校長通信

白中雑口把覧（ザックバラン）Ｎｏ．２９

～　白沢中の”今”を、ご覧ください　～

発行　令和２年１１月４日

校長の白沢学その２４「養蚕その２　新田猫」

写真のような猫の絵が飾ってある家はありませんか？昔、養蚕をやっていた家には、飾ってある可能性が高いと思います。というのは、この絵は「新田猫」「八方にらみの猫」「満次郎の猫」と言われる絵で、蚕を食べてしまうネズミ除けのための絵だからです。そしてこの絵は、岩松家のお殿様によって描かれたものです。

私がこの絵に興味をもつようになったのは、私の祖父の生まれた、藤原の雲越家住宅の床の間に飾ってあり、ある時「〇十万で売ってほしいという話があった」と聞いたからです。「そんなに価値があるのだろうか？」と、『何でも鑑定団』的な興味で調べたことがありました。その時は既に雲越家住宅は、国指定有形民俗文化財に指定されていたので、売り払って一儲け、ということにはなりませんでしたが・・・・。

「岩松家のお殿様が描いた」と言いましたが、実はこのお殿様は、お殿様といっても非常に貧しかったということです。

岩松（新田）家は、群馬県新田郡下田嶋村（現・太田市）の百二十石のお殿様でした。百二十石なのに、十万石の大名の扱いをされていました。というのは、徳川家康と同じ新田家の血筋を引いていたからです。ある時徳川家康に、新田の家系を奪われそうになったことがありました。が、機転を利かせて、新田嫡流の家系を守るが、今後新田の姓を名乗らずに岩松姓を名乗る、ということで切り抜けました。

岩松家は百二十石しかないのに家柄が良いために、５年に１回、大名格の参勤交代を行うことになっていました。参勤交代制度の目的の一つは、諸大名に行列のために大金を使わせて勢力をそぎ、謀反などを起こさせないようにするためでした。岩松家の安政六年の「金銀出入控帳」によると、七割近くが借金になっていました。家柄だけは抜群にいいのに、かなりの窮乏生活をしていたようで、当時岩松氏は農民たちに貧乏の代名詞のように考えられていたそうです。

そこで、収入を得るために、猫の絵を描いて売っていたようです。描いていたのは十八代・温純（あつずみ）十九代・徳純（よしずみ）二十代・道純（みちずみ）二十一代・俊純（としずみ）です。相当売れたらしく、お殿様の絵だけでは足りなくなり、他の絵師が描いたものや印刷されたものも出回ったということで

す。もし、みなさんの家にこの絵があったら、絵の端に書いてある名前を見て、何代目のお殿様の絵なのか、確認してみてください。

実はこの岩松家は、白沢とも大きな関係があります。うつぶしの森で討死にした新田義宗には七人の子がいました。長男が貞方、二男が満純、三男が貞氏です。長男の貞方が新田家を継ぎ、**二男の満純が岩松家を継ぎ**、三男の貞氏が横瀬家を継ぎました。

岩松家は、新田義宗の流れを汲んでいる家系なのです。

【学校侵入者対応訓練】

10 月 19 日（月）に、沼田警察署生活安全課スクールサポーターの茂木さんと白沢駐在所長の田中さんをお招きし、学校侵入者対応訓練を行いました。今年は新型コロナウィルス感染防止のため、生徒の避難訓練は行わず、職員のみの訓練となりました。

「生徒の安全避難」「職員の被害防止」「迅速な通報」を柱に、発生時の臨機応変な対応ができるよう、アドリブでの対応訓練を行いました。その後、「さすまた」の使い方等について説明していただきました。

大変有意義な訓練となりました。ありがとうございました。